

今を生きる

師走の会津で

〇〇5〇〇

花が並ぶ。大熊町の無職塚本富久子さん(左)は花に囲まれた生活を送っている。「楽しみは、これだけ」。部屋に甘い香りが漂う。

つと玄関にプランターが増えていった。そのたびに自分の心も明るくなった。今では、手入れが何よりの生きがいだ。

同じような建物が等間隔で並ぶ会津若松市の扇町一号公園仮設住宅。歩いていけると、突然「お花畑」が現れる。玄関に飾られた愛らしいパンジーが来訪者を出迎え、居間のたんすの上にも所狭しと、色とりどりの

花を飾るきっかけは、意外なことだった。「また迷っちゃったよ」。夫の英一さん(右)が自分の家を間違えた。仮設住宅に入居したばかりの七月中旬のことだった。

夫を思い、一つ、また一日に日に「お花畑」と化していく塚本さん宅は近所で話題になった。立ち話も増え、花がきっかけで友達もできた。

大熊町では英一さんと共に農業を営んでいた。古里でも、たくさんの花に囲まれた生活だった。プランターの土いじりをしても、古里のにおいはしない。でも、心が癒やされる。

◇ ◇

十三日に六十八回目の誕生日を迎えた。娘や孫、息子のお嫁さんからたくさんの花が届いた。眺める花が増え、楽しみがまた一つ増えた。ただ、不安は尽きない。大熊に帰れるのか、帰れないのか。考え事をすると、花びらにそっと手を添える自分がある。

「師走の会津で」はおわります

"お花畑" 心の支え

大熊の塚本富久子さん 仮設住宅に彩り



部屋に飾られた花を見詰める塚本さん